

タイトル:平成 24(2012)年度 教育セミナー

日時:平成 24 年 9 月 14 日(金)~17 日(月・祝)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「ナショナルアイデンティティと人口センサス——トルコにおける近代センサス導入をめぐって」

穂山 祐子(一橋大学大学院博士後期課程)

今回このセミナーに参加させていただいたのは、私が所属する研究科に地域的な専門を同じくする指導教官がいないということが大きな理由でした。期待通りたくさんの方にご指導いただけたこと、自分と同じ地域を研究している受講生とのつながりが持てたことなど多くの収穫があり、もっと早い段階で参加していればよかったと感じています。ハードな日程でしたが、それ故に集中力を切らさずセミナーに臨むことができ、大変有意義な 4 日間になりました。

自分にとって最もプラスになったのは、貴重な時間を頂いて修士論文の内容の一部を発表できたことでした。質疑応答では時間をいっぱい使って、先生方、受講生の皆様から示唆に満ちたご指摘、建設的なご批判をいただきました。今後の研究の方向性をどのように設定するのか迷う中でのセミナー参加でしたので、引くべき参考文献、新しい視点、テーマの広げ方、その際どんな資料を使うことが考えられるかなどについての先生方のアドバイスはどれも参考になるものばかりでした。自分の勉強不足はもちろん、物を書くときの慎重さや緊張感の欠如、発表準備の詰め甘さなども痛感しました。いただいたコメントを肝に銘じ、今後の指針にしたいと思います。

先生方の講演は、これまであまり触れたことのない地域や時代についての知識を得る機会になると同時に、研究の裏側を垣間見る場にもなりました。これまで迎ってこられた研生活のなかでのご苦労や喜びを織り交ぜたお話の中には、共通して研究対象への情熱や愛情が感じられ、勝手な受け取り方かもしれませんが、私も自分なりの興味関心に素直になって研究に取り組んでいこうという気持ちになりました。

今後もこのセミナーで学んだことを振り返り、励みにしながら、研究を進めていきたいと思います。休憩時間やお酒の席、ご一緒した帰りの電車の中でも引き続きアドバイスをくださった先生方、事務局の千葉様、受講生の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。